

学生の成長を支える教育学習環境に関する調査研究

(A Study of Teaching and Learning Environments that Support Students' Growth)

本プロジェクト研究は、学習成果と教育学習環境の関係性を、実証研究に基づいて明らかにしようとするものである。具体的には、いかなる教育学習環境が、学生による知識や能力の習得、成績、学修時間などの指標と、正の相関を持つのかを全国的な調査データの収集・分析及び事例研究から明らかにすることを目指す。

得られた知見を基に、大学教育のさらなる質向上のための政策立案に資するファクトを提供する。

教育学習環境

- ① グローバル化戦略
- ② 教育内容・方法の改革
- ③ ダイバーシティ
- ④ 学生集団の規模 など

どのような相関があるのか？

学習成果

- ・ 知識や能力の習得
- ・ 成績
- ・ 学修時間 など

主な知見

- グループワーク等の形態の授業を多く経験するほど、授業出席や授業外学習時間が長い
- 奨学金受給者の方が、そうでない学生よりも授業の予習・復習等の時間が長い
- 人文社会系(地方所在国立大)では、出身地の多様性が高い学部の学生ほど、幅広い視野等の形成に授業が有効と捉えている など

使用するデータ

- ・ 国立教育政策研究所「大学生等の学習状況に関する調査研究」(H26)
- ・ 文部科学省「学校基本調査」(各年)
- ・ 文部科学省がこれまで展開してきたグローバル化に係る競争的資金事業に採択された大学の取組概要、事業評価に関する公開文書 など